

【学校教育目標】

〈 自啓・誠実・協同 〉

～自分自身や周囲の人々、そしてふるさとを大切に、夢や目標に向かって努力する生徒を育成する。～

【本校の現状と課題】

- ① 「体力調査の具体的な数値をもとにした結果」の分析
 - 新体力テストの総合評価 $\{(A+B) - (D+E)\}$ の数値が1・2年男子以外は上回っている。また、 $(A+B)$ の数値が1年男子と2年男女、 $(D+E)$ の数値が全学年男子で県平均に達していない。男子に運動が苦手な生徒が多いと考えられる。
- ② 「運動に対する意識」・「運動習慣」についての生徒の実態を分析
 - 運動部入部の割合は、男子77%、女子36%と女子の運動部入部率は低い。クラブ等で各種スポーツに取り組んでいる生徒を含めると、男子93%、女子40%、全体では67%が運動を継続的に行っている。
 - 昼休みに運動場や体育館でボールの貸し出しにより運動に取り組む生徒は、全校生の約40%程であり、活発に身体を動かす生徒は多く、他学年との交流も増加している。しかしその反面、女子の活動は少ない。また、熱中症対策も考慮する必要がある。
 - 家庭でのメディア使用時間は週末や長期休業中の生活において増加傾向にあり、生徒が運動の必要性を認識し、積極的に自ら運動に取り組む姿勢の習慣化には課題がある。

「保健体育の授業での取組」

- ・アルファを活用して新体力テストの結果を分析することにより、自ら運動に意識的に取り組むことができるようにする。また、自分の苦手体力要素を高める運動に年間を通して取り組ませ、体力の向上を図る。

「保健体育の授業以外での取組」

- ・昼休みにボールの貸し出しを行ったり、全校生や学級によるスポーツレクリエーションを計画したりし、運動が苦手な生徒も気軽にスポーツを楽しむことができるようにする。

「縦割りチームで園・小と合同運動会」

- ・今年度3回目となる園・小・中合同運動会を通して、人との交流の楽しさを味わい、生涯に渡って運動に関わる姿勢を身につけさせる。他学年との縦割りチームで先輩からソーラン節を教えてもらったり、各競技種目のコツなどを学んだり、また、こども園・小学生と交流したりすることを大切にする。

「庵治中体験での小中連携」

- ・小学生の庵治中体験では部活動の体験を行い、先輩との交流や、中学校の部活動に向けて夢や目標を持てるよう小中連携を図る。

【 目 標 】

- ① 「新体力テストの数値における目標」
 - 年間を通してアルファ活用により、全学年の総合得点を香川県の平均以上にする。
- ② 「運動に対する意識・運動習慣における目標」
 - 昼休みの運動場・体育館利用人数を増やすとともに、他学年の生徒同士でもお互いに配慮しながら主体的に運動に取り組めるなかまづくりを行う。